

2. 基本的能力(雌豚の繁殖能力等)の向上に関する センターと複数県での連携

1 現 状

- (1) 主要国と平均値を比較すると、デンマークが1腹生存産子数が多い等能力の高い傾向はみられるが、米国及びカナダとは同程度。

能力の国際比較(2002年)

| 項 目 | 日 本 | 米 国 | カナダ | デンマーク |
|------------|-------|-------|-------|-------|
| 年間分娩回数(回) | 2.10 | 2.18 | 2.20 | 2.25 |
| 1腹生存産子数(頭) | 10.3 | 10.1 | 10.5 | 12.2 |
| 年間離乳頭数(頭) | 19.90 | 19.57 | 20.79 | 23.80 |
| 1腹離乳頭数(頭) | 9.5 | 9.0 | 9.5 | 10.6 |

資料:豚改良増殖の現状と課題(畜産振興課)より抜粋

注 :日本についてはLW, WLの平均値

1腹離乳頭数は年間離乳頭数÷年間分娩回数

- (2) 現在実施されている系統造成(雌系)において、繁殖に係る形質を選抜項目としている系統は7系統(ランドレース6系統、大ヨークシャー1系統)で、その形質は総産子数の1形質或いは離乳時1腹総体重との2形質。なお、19年度から新に富山県が大ヨークシャーの造成を開始予定(選抜形質は総産子数の予定)。

雌系品種の系統造成における繁殖形質に係る選抜形質

| 品種・項目 | 総産子数(頭) | | 離乳時1腹総体重(kg) | | 備 考 | |
|---------|---------|------|--------------|---------|-------|-----|
| | 世 代 | 目 標 | 世 代 | 目 標 | | |
| ランドレース | G3 | 11.4 | 12.5 | | 宮城県 | |
| ランドレース | G2 | 11.4 | 11.0 | | 茨城県 | |
| ランドレース | G2 | 10.4 | 11.0 | G2 56.7 | 58.0 | 愛知県 |
| ランドレース | G4 | 10.0 | 10.0 | G4 59.1 | 65.0 | 大分県 |
| ランドレース | G3 | 10.0 | 11.6? | G3 51.8 | 60.9? | 宮崎県 |
| ランドレース | G2 | 11.3 | 12.0 | G2 52.4 | 63.0 | 沖縄県 |
| 大ヨークシャー | G4 | 9.5 | 11.1 | | | 全 農 |

資料:平成19年度豚の新育種技術に関する研究会資料より作成

注 :宮崎県の改良目標値は推定

- (3) 県等においても予算・人員が削減され、新たな系統を造成することはかなり困難なことから、改良センターで雌系を造成できないかとの意見もある(国は基本的能力を向上特徴ある豚肉生産は県等が行うとの意見)

2 問題点

- (1) デンマークを例とする養豚先進国と比較して、産子頭数をはじめとする繁殖形質の改良が立ち後れている。

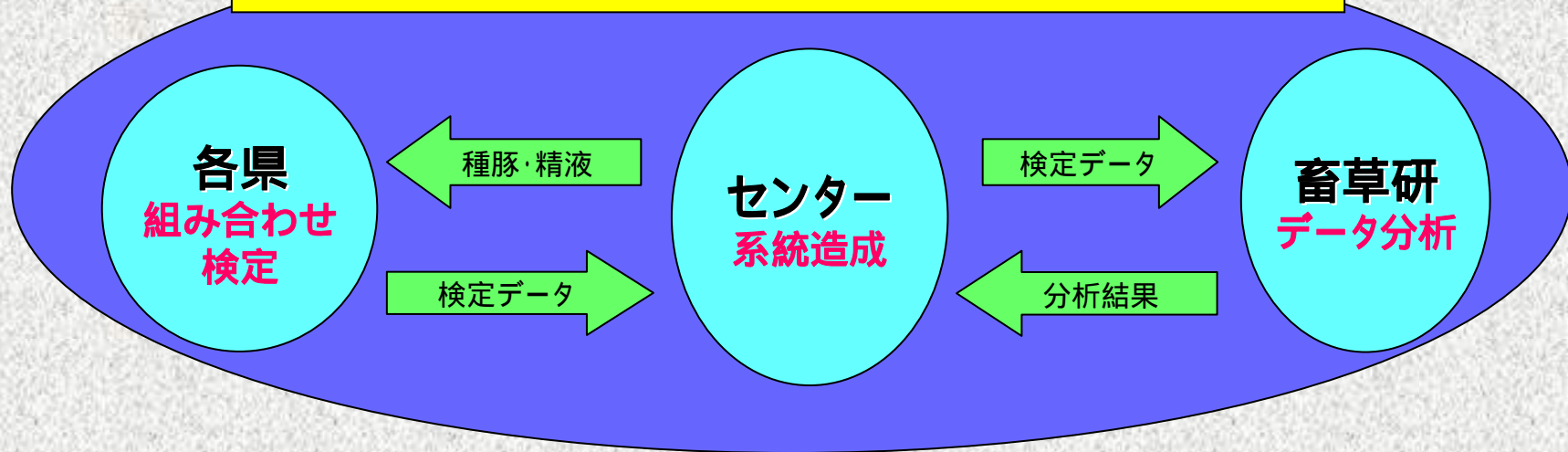
- (2) 各県等における系統豚の普及状況を見ると、多くは自県内での供給にとどまっているため、他県において組み合わせ検定の結果高い評価が得られても、その系統豚について継続的に供給することは難しいようである。そのためか、近年、組み合わせ検定(F1種豚の繁殖能力検定等)の実施が減少(三元肉豚の能力調査は極めて少ない)している。
- (3) 各県等においても産子数等を選抜形質とした系統を造成中であるが、集団の規模等を考慮すると、基礎集団の能力が極めて高くないと、造成終了時に高い繁殖能力が望めなのではないか。

3 考えられる対応

センター・都道府県連携案 (別紙)

センター・都道府県連携の案

広域系統造成検討会（仮称）



センターに系統造成検討会を設置、各県に連携呼びかけ
要望により複数の県を参集し検討会を開催（畜草研へ参加要請）
品種を含め、どのような系統造成を行うか検討
センターにおいて系統造成実施
途中世代豚を随時センターより各県へ供給、各県においては組み合わせ
検定実施（必須）
検定結果をセンターへフィードバック、分析（畜草研と共同）
分析結果により検討会において今後の改良方針等について協議（年1回）
系統造成終了後は、参加県においては維持または増殖を行う（必須）